性愛をめぐるシヴァとパールヴァティーの対話

―― *Ratiśāstra* 和訳(1) ――

堀　田　和　義

はじめに[(1)]

本稿は，272 詩節から成る *Ratiśāstra*（以下，RŚ）前半部（第 1～127 詩節）の和訳である．RŚ は Itihāsa 体で書かれた作者不明の文献で，シヴァとパールヴァティーの対話という形をとる．韻律としては，mālinī がいくつか含まれ，散文部分が 1 か所のみ見られるほかは，śloka で構成されている．

Zysk 2002 によると，「愛」に相当するサンスクリット語には，kāma，śṛṅgāra，rati がある．それらのうちの kāma は，快楽，とりわけ性的な快楽を意味し，Kāmaśāstra（性愛学）で扱われる．一方，śṛṅgāra は愛や愛情に関わる理想的な感情の状態を意味し，詩作品（Sāhitya）や詩論（Alaṃkāraśāstra），演劇論（Nāṭyaśāstra）で扱われる．

そして，RŚ という文献の名前にも含まれる rati という語は，一般的には，性交を通じて表現される愛を意味し，専門的には，バラモン教で承認された関係にある男女の間の愛を意味するとされる．そのため，Zysk 2002 では，RŚ を *The Traditional Teaching on Conjugal Love*（夫婦愛に関する伝統的な教え）と英訳している．

この文献が属する Ratiśāstra と呼ばれる学問分野の成立は比較的新しく，1,600 年以降のこととされる[(2)]．この分野は，伝統的なインドの学問において，男女の適合性については Kāmaśāstra[(3)]，男女の身体的特徴については Sāmudrikaśāstra（観相学[(4)]），結婚に際しての男女の正しい振る舞いについては Dharmaśāstra（法学[(5)]），女性の健康や出産については Vaidyakaśāstra（医学）とい

うように[6]，各分野で別々に論じられていた内容をまとめることによって成立したと考えられている．

本稿で扱う RŚ 前半部では，男女の分類やその組み合わせ，生まれる子供の種類や時間が子供に与える影響，結婚に適した女と適さない女，さらには，妊娠可能な期間の行い，初潮の日の影響や，曜日や月，星宿などが及ぼす影響を扱う．全体の構成や各トピックの詳しい内容は，以下に提示したシノプシスを参照されたい．

翻訳に際しては，以下のものを底本とし，同書に含まれる英訳を参照した[7]．

・*Conjugal Love in India: Ratiśāstra and Ratiramaṇa. Text, Translation, and Notes*. Kenneth G. Zysk. Sir Henry Welcome Asian Studies Volume 1. Leiden/Boston/Köln: Brill, 2002.（= Zysk 2002）

凡 例

・和訳には，一定の内容のまとまりごとに見出しを付した．
・インドの文献において多用される epithet は，文脈の理解を妨げることも多いと考え，原則として，一般的と思われる呼び名で統一した．ただし，epithet にも重要な意味があることを考慮して，その直訳と原語を注記した．
・注には，内容の理解に最低限必要と思われる情報や，Zysk 2002 と解釈が大きく異なる点を中心に記した．RŚ 内に見られる同一表現や類似表現，*Ratiramaṇa* や Kāmaśāstra との対応関係の詳細は，Zysk 2002, p.98 以下の注を参照．

シノプシス

全体の導入部（1–15）

導入部（1）

パールヴァティーの問い（2）
シヴァの答え（3-13）
カーマとラティの誕生（14）
男と女の誕生（15）
　男の種類（16-30）
　　男の 4 分類（16）
　　兎種の定義的特質（17-20）
　　鹿種の定義的特質（21-22）
　　牛種の定義的特質（23-27）
　　馬種の定義的特質（28-30）
　女の種類（31-51）
　　導入部（31-32）
　　女の 4 分類（33）
　　蓮華性の定義的特質（34-39）
　　雑色性の定義的特質（40-42）
　　貝殻性の定義的特質（43-46）
　　牝象性の定義的特質（47-51）
　男女の組み合わせ（52-57）
　　導入部（52-53）
　　兎種と蓮華性の組み合わせ（54）
　　鹿種と雑色性の組み合わせ（55）
　　牛種と貝殻性の組み合わせ（56）
　　馬種と牝象性の組み合わせ（57）
　生まれる子の種類（58-62）
　　導入部（58）
　　兎種と蓮華性の子（59）
　　鹿種と雑色性の子（60）
　　牛種と貝殻性の子（61）

馬種と牝象性の子（62）
性交時と子供の性質（63–71）
導入部（63）
月がマヘーンドラ星宿にある時の牝象性の子（64）
月がヴァールナ星宿にある時の貝殻性の子（65）
鹿種と雑色性の子（66）
月経後の沐浴を済ませた女の子（67）
兎種と蓮華性の子（68）
馬種と蓮華性の子（69）
兎種と貝殻性の子（70）
牛種と蓮華性の子（71）
結婚に適した女と適さない女（72–78）
導入部（72）
結婚に適した女の定義的特質（73）
結婚に適さない女の定義的特質（74–78）
女の 3 分類（79–90）
導入部（79）
至上の女の定義的特質（80–81）
中程度の女の定義的特質（82–85）
最低の女の定義的特質（86–90）
妊娠可能な期間の行い（91–93）
導入部（91–92）
月経の起こる年齢（93）
白分と黒分の影響（94–95）
導入部（94）
白分と黒分の影響（95）
初潮の日の影響（96–114）
導入部（96–98）

1 日目の影響（99）
2 日目の影響（100）
3 日目の影響（101）
4 日目の影響（102）
5 日目の影響（103）
6 日目の影響（104）
7 日目の影響（105）
8 日目の影響（106）
9 日目の影響（107）
10 日目の影響（108）
11 日目の影響（109）
12 日目の影響（110）
13 日目の影響（111）
14 日目の影響（112）
満月の日の影響（113）
新月の日の影響（114）
7 つの曜日の影響（115-118）
導入部（115）
日曜日の影響（116）
月曜日～木曜日の影響（117）
金曜日と土曜日の影響（118）
月の影響（119-122）
導入部（119）
ヴァイシャーカ月～シュラーヴァナ月の影響（120）
バードラ月～カールッティカ月の影響（121）
マールガシールシャ月～チャイトラ月の影響（122）
星宿の影響（123-127）
導入部（123）

プールヴァパルグニー星宿～ムリガシラー星宿の影響（124）

マガー星宿の影響（125）

プナルヴァス星宿の影響（126）

クリッティカー星宿とジイェーシュター星宿の影響（127）

和 訳

【全体の導入部】

〈導入部〉

1.　成就者や天上の楽人たち[8]が住む美しいカイラーサ山の頂で，〔世界の〕本源[9]である女神パールヴァティー[10]は，シヴァ[11]に尋ねました．

〈パールヴァティーの問い〉

2.「この人間界において，性的享楽はどのように生じるのですか．実に，世界の主よ，それをお話し下さい[12]．私はすっかりあなたを頼りにしているのです．」

〈シヴァの答え〉

シヴァは答えました――

3.「あなたは世界の原初の母であり，幻力はあなたに特有のものですが，あなたもそれによって迷わされています．これは驚くべきことです，パールヴァティーよ[13]．

4.　偉大な女神よ，以前の魅力的な会話をどうか思い出して下さい．カイラーサ山の頂で，あなたが私と交わした会話を，愛しい女よ．

5.　この輪廻という海において，私だけがあなたとともにカイラーサ山の美しい頂にいました，最高の女神よ．

6.　あなたが性的享楽を求めた時に，私はあなたと楽しみましたが，私が常に精液を漏らさなかったのを，どうして忘れたのですか，愛しい女よ．

7.　それでも，あなたは満足せず，私に対して怒りを覚えました．そして，立ち去って，隠れてしまいました，女神よ．その時，私は困惑しました，愛しい女よ．

8.「何をしよう」「どこへ行こう」と，私は思案に暮れました．そして，女神よ，あなたに対する称賛が私の口から出たのでした．

9.　この称賛のおかげで，その時，私は願いが叶いました．女神よ，あなたこそが〔世界の〕本源であり，あなたの幻力は逃れ難いものです．

10. 称賛にすっかり満足したあなたは，笑顔を浮かべて私の前に現れました，女神よ．その時，私には〔生きる[14]〕意味が生じました，罪のない女よ．

11. パールヴァティー[15]よ，性的享楽を求めるあなたに再会すると，私は再びあなたと 12 年もの時間にわたって楽しみました．

12. しかし，私は欲望を離れたヨーガ行者であり，あなたは満足しませんでした[16]．そこで私は言いました[17]，偉大な女神よ．「どうしてあなたは怒っているのですか，パールヴァティーよ．

13. 女神よ，あなたを喜ばせるために，私は性愛と夫婦愛を創造しましょう．性欲により戯れ，順に子孫をもうけましょう．」

〈カーマとラティの誕生〉

14. シヴァ[18]がこのように言うと，右半身からカーマ神が生まれました．そして，左〔半身〕からは，夫婦愛を楽しむ美しい女神ラティが生まれました．

〈男と女の誕生〉

15. パールヴァティーとシヴァ[19]が戯れに耽ったその時以来，この世界は男と女に満ち溢れているのです．

【男の種類[20]】

〈男の 4 分類〉

16.「種別に従って，4 種類の男がいます，幸福をもたらす女よ．すなわち，

兎種(シャシャ)，鹿種(ムリガ)，牛種(ヴリシャ)，そして，4番目として馬種(トゥラガ)です.[21]

〈兎種の定義的特質〉

17. 背は低すぎず高すぎず，性愛により輝き，優れた相を備えており，邪悪でなく，信愛を備えており，年長者，神々，バラモンを敬い，

18. 常に善き人々と交際し，クリシュナの物語に専心し[22]，人妻からは顔を背け，クリシュナの物語を熱望し，

19. 声は低く，人品優れ，心穏やかであり，人助けをし……（テキスト欠）……そのような者が，兎種であると知るべきです.

20. 言葉は柔らかで気立てが良く，手足は華奢で，髪は美しく，あらゆる美質の宝庫であり，真実を語る者が，兎種です.〔彼は甘い言葉を語り，踊りや歌を好み，バラモン，神々，年長者に信愛を捧げ，親類とともにあり，財産に満ちています.〕

〈鹿種の定義的特質〉

21. 手足は長くて冷たく，上目遣いで，顔に笑みを浮かべており，沐浴によって身体を清め，飛び跳ねながら進み，

22. 大食で，非常に力が強く，いつも歌や楽器を好み，顔に笑みを浮かべており，手足は冷たい，このような男が鹿種であると伝えられています.

〈牛種の定義的特質〉

23. 残酷で，神，年長者，バラモンを敬い，上目遣いで，手足は長く，クリシュナの物語を熱望し，

24. 大食で，力が強く，クリシュナの物語に専心し，昼も夜も歌を好み，神々や客人に仕え，

25. 足は短く，舌は長く，身体はプーガ樹[23]のにおいを放ち，大食で，手足は毛が逆立っていて肥えており，女を見ることを熱望し，

26. 恥じらいがなく，法(ダルマ)を欠いており，常に悪事に携わり，恋愛に心を注ぎ[24]，

心は性愛に悩まされており，

27. 目は大きく見開かれ，あまり眠気を催すことなく……（テキスト欠）……驢馬のような印があります．以上，牛種という種類の定義的特質を述べました．あなたはそれを知りなさい，女神よ．

〈馬種の定義的特質〉

28. 女神よ，お聞きなさい．馬種という種類の定義的特質をお話ししましょう．その者は，身体が黒く，法（ダルマ）を欠いており，決して眠気を催さず，

29. 歩みは早く，身体は太っており，心は性愛に悩まされ，偽りを語り，行いは悪く，悪行に耽っています．

30. また，彼は常に心に怒りを抱き，他人を非難し……（テキスト欠）……常に法（ダルマ）を欠いており，誰か女を手に入れれば，心の中で満足を得ます[25]．

【女の種類】

〈導入部〉

31. 女神よ，以上，4 種類の男の定義的特質をあなたにお話ししました．これから，何をお話ししましょうか．あなたは他に何が聞きたいですか．」

パールヴァティー[26]は答えました——

32.「神よ，女の種類についてお話し下さい．〔それについて〕とても聞きたいのです．」

〈女の 4 分類〉

シヴァは言いました——

33.「第 1 のものが蓮華性（パドミニー）であり，第 2 のものが雑色性（チトラーニー）です．そして，〔第 3 のものが〕貝殻性（シャンキニー），〔第 4 のものが〕牝象性（ハスティニー）です[27]．以上のように，女性に関して確定しています[28]．

〈蓮華性の定義的特質〉

34. 常に法(ダルマ)に従い，気立てが良く，蓮の匂いが染み付いている最高の女が蓮華性であると知りなさい，最高の女神よ．

35. 女神よ，〔その者は〕常に夫に貞節であり，有徳であり，声はコーキラ鳥のように甘く，顔には笑みを浮かべ，目は大きく切れ長で，歩みは象王のようであり，常に愛情に満ち，輝いており，

36. 夫に貞節であり[29]，常に法(ダルマ)に専心しており，目は鹿のようであり，匂いは蓮のようであり，弁舌に優れ，声はコーキラ鳥のようであり，

37. 非常に魅力的な流し目によって世の人々を迷わせ，歩みはフラミンゴのようであり，美しい顔には笑みを浮かべており，

38. 絶えず愛情に満ちており，吉相を備えています．論書において，賢者たちはそのような女を蓮華性と呼んでいます．

さらにまた――

39. 蓮華性は，目が蓮華のようであり，鼻の穴は小さく，一対の乳房は密であり，髪は長く，細身で，言葉は柔らかで気立てが良く，踊りや歌を好み，全身を美しく着飾っており，蓮華の香りがします．

〈雑色性の定義的特質〉

40. 美しく，心は堅固であり，常に真実を語り，神々，バラモン，年長者に対して常に信愛を備えており，

41. その心は自分の夫以外の他の男たちには喜びを見出さず，欲求は強くなく，わずかな性交で満足し，

42. あらゆる人に優しい言葉をかけ，決して悪事に心を向けず，憐れみ，寛容，法(ダルマ)を備えており，〔両手の〕5 本の指には装飾具を付けています[30]．賢者たちは，以上のような者を雑色性と言います．

〈貝殻性の定義的特質〉

43. 貝殻性は，腐食性のにおいがし，髪が長く，鼻が高く，常に空腹を抱えて

おり，乳房は大きく，盛り上がっていて密であり，

44. その高笑いは空へ高く〔のぼり〕，常に悪い考えを抱いており，美しく，性愛に悩まされており，性欲と笑いに取りつかれており，

45. 自分の尊敬すべき夫を捨てて他の男たちを求め，いつも恋愛に狂っており，悪い話に夢中であり，決して年長者たちを恐れません.

さらにまた——

46. 貝殻性は，背が高く，目は非常に切れ長で，非常に美しく，恒常的で過剰な享楽を楽しみ，美質と良い気質を備えており，頸部は三本の筋(31)で飾られており，お喋りと議論(32)を好むといいます.

〈牝象性の定義的特質〉

47. 牝象性は，常に行いが悪く，酒のにおいがし，良い行いを欠いており，大柄で，髪が非常に少なく，顔には笑みを浮かべており，

48. 一対の目は赤みを帯び，乳房は大きく，盛り上がっており，抜け目がなく(33)，いくらか美しく，低い声を備えており，

49. 性愛に関して恥じらいがなく，常に性愛に悩まされており，その身体は男に触れられることにより体毛が逆立ち，

50. 愛欲ゆえに，昼も夜も恋愛に心を注いでおり，自分の夫を捨てて，常に他の男たちとの快楽を楽しみます.

別の見解では——

51. 牝象性は，唇が厚く，臀部が大きく(34)，指が太く，乳房が大きく，非常に太っており，快楽を熱望しており，常に〔男の〕美質を好み，過食です.」

【男女の組み合わせ】

〈導入部〉

パールヴァティー(35)は尋ねました——

52.「偉大な者よ，〔あなたが〕語った女と男に関する確定事項を聞きました.主よ，どの女がどの男と結び付くのかを，これから私にお話し下さい.」

シヴァは答えました――

53.「女神よ，あなたが尋ねたことを基本的なことから[36]お話ししましょう．そこで，これから適切な組み合わせと不適切な組み合わせを吟味しましょう．

〈兎種と蓮華性の組み合わせ〉

54. もし兎種と蓮華性が結び付いたならば[37]，その両者はあたかもラクシュミーとヴィシュヌ[38]のように輝きを放つでしょう[39]．

〈鹿種と雑色性の組み合わせ〉

55. 偉大な女神よ，もし鹿種と雑色性が結ばれたならば，その女はあたかもパールヴァティー[40]とシヴァのように固く結ばれます．

〈牛種と貝殻性の組み合わせ〉

56. もし牛種と貝殻性が結ばれたならば，その夫婦はラティとカーマ[41]のように認識されます．

〈馬種と牝象性の組み合わせ〉

57. 馬種と牝象性との組み合わせは，あたかもラーヴァナとマンドーダリー[42]の組み合わせのようなものであると言われています．

【生まれる子の種類】

〈導入部〉

58. これらの者たちの息子がどのようなものであるのか[43]を，これからあなたにお話ししましょう．偉大な女神よ，このすべてをしっかりと確かめなさい[44]．

〈兎種と蓮華性の子〉

59. 偉大な女神よ，もし兎種により蓮華性の母胎に息子が生じたならば，法（ダルマ）を実践する者となり，娘が生まれたならば，心の清らかな者となります．

〈鹿種と雑色性の子〉

60. 偉大な女神よ，もし鹿種により雑色性に胎児が授かったならば，ガンダルヴァのような息子やヴィディヤーダリーのような娘を産みます.

〈牛種と貝殻性の子〉

61. 偉大な女神よ，もし牛種により貝殻性に胎児が授かったならば，最高の戦士となる息子や家に不名誉をもたらす娘を産みます.

〈馬種と牝象性の子〉

62. 馬種により牝象性に生まれた息子は，強力な者となります．一方，偉大な女神よ，娘ならば性愛に狂った者となります.」

【性交時と子供の性質】

〈導入部〉

パールヴァティーは尋ねました——

63.「偉大な方よ，私にお話し下さい．時間の異なる性交により，性質の異なるあらゆる息子や娘が，どのようにして生まれるのかを(45).」

〈月がマヘーンドラ星宿にある時の牝象性の子〉

シヴァは答えました——

64.「〔あなたは〕憐れみ深い者です，女神よ．あなたが尋ねたことを，これからお聞きなさい．最高の女神よ，〔月が〕マヘーンドラ星宿(46)にある時に，牝象性が胎児を授かったならば，神のような息子を産むと性愛学〔の書〕において述べられています.

〈月がヴァールナ星宿にある時の貝殻性の子〉

65. 最高の女神よ，〔月が〕ヴァールナ星宿(47)にある時に，貝殻性が胎児を授かったならば，幸運な娘，あるいは幸運な息子が生まれます.

〈鹿種と雑色性の子〉

66. もし不吉な時に雑色性と鹿種の間に息子が生まれたならば，その子供は大きな苦しみを味わいます．この点に関して，疑いを差しはさんではなりません．吉祥な瞬間であれば幸福になり，不吉な〔瞬間〕であれば不幸になります．

〈月経後の沐浴を済ませた女の子〉

67. 月経後の沐浴を済ませた魅力的な女は，〔沐浴後，最初に〕顔を見た男[48]に似た息子を得ます．この点に疑いはありません[49]．」

〈兎種と蓮華性の子[50]〉

シヴァは言いました[51]——

68.「兎種と蓮華性の間に生まれた息子は，賢者になります．また，娘が生まれたならば，正しい行いに専心する者となります[52]．

〈馬種と蓮華性の子〉

69. もし馬種により蓮華性が息子を得たならば，彼も大きな苦しみを味わいます．そして，娘ならば，不純な心を持つ者となります．

〈兎種と貝殻性の子〉

70. 兎種によって貝殻性に生まれた息子は，法（ダルマ）に忠実な者となります．そして，娘ならば，怒りっぽい者となります．以上が，論書を知る者たちの見解です．

〈牛種と蓮華性の子〉

71. もし牛種によって蓮華性に息子や娘が生まれたならば，行いの悪い息子や行いの悪い娘になります．この点にはまったく疑いがありません．」

【結婚に適した女と適さない女】

〈導入部〉

パールヴァティー[53]は言いました——

72.「シヴァ[54]よ，幸運な者よ，吉祥な娘の定義的特質をお話し下さい．どのような女を娶るべきであり，どのような女を確実に避けるべきなのでしょうか.」

〈結婚に適した女の定義的特質〉

シヴァは答えました——

73.「もし色黒で，髪が美しく，腹部の毛の連なりが細く，眉が美しく，気立てが良く，歩みが優美で，歯が美しく，腰が祭壇（ヴェーディー）のように[55]細く，目が蓮のようであるならば，たとえ家柄が劣っていても[56]，結婚に適しています.

〈結婚に適さない女の定義的特質〉

74. もし無作法で，歯が汚く，目が黄褐色で，足と細い身体[57]は体毛で覆われ，胴が太いならば，たとえ王女であって，家柄に関しては適切であっても，結婚に適していません.

さらにまた——

75.〔髪が[58]〕黄褐色の女，手足が多い女，病気の女，無毛の女，多毛の女，饒舌な女，黄褐色の女と結婚するべきではありません.

76. 星，植物，河川の名前を持つ女[59]，西方の山の名前を持つ女，鳥，蛇，召使いの名前を持つ女，恐ろしい名前を持つ女とも〔結婚するべきでは〕ありません.

さらにまた——

77. 河川の中でも，ガンガー，ヤムナー，ゴーマティー，サラスヴァティーというこれらの名前，植物の中でもマーラティー，トゥラシー，星宿の中でも，レーヴァティー，アシュヴィニー，ローヒニーは吉祥をもたらします[60].

さらにまた——

78. 両眼が斜視，あるいは黄褐色であり，意地が悪く，瞳は暗褐色で震えており，微笑むと両頬に笑窪ができる女を，人々は疑いなき遊女と呼びます.」

【女の３分類】

〈導入部〉

シヴァは言いました――

79.「女神よ，お話しするので，お聞きなさい．女には３種類があると考えられています．すなわち，至上の女，中程度の女がいると知るべきであり，まったく同様に最低の女がいると伝えられています.[61]

〈至上の女の定義的特質〉

80. 背が高すぎることなく，低すぎることもなく，色黒であり，細身で，歩みは象王のようであり，掌は赤い蓮のようであり，魅力的で，

81. 夫に貞節で，高潔であり，乳房〔の大きさ〕は中程度であり，法（ダルマ）に忠実な女こそが，至上の女と言われています.

〈中程度の女の定義的特質〉

82. 背は中程度で，髪が長く，傲慢でも怠惰でもなく，[62] 苦にも楽にも平等な女であり，

83. いつも顔に笑みを浮かべており，臍が深く，あらゆる場合に甘い言葉を語り，良い行いに専心しており，

84. 心を絶えず法（ダルマ）に留め，非常にわずかな食事で満足し，あらゆるものを自己と考え，年長者への信愛に専心しており，

85. 神々の崇拝を喜び，高潔であり，バラモンへの奉仕に専心する者が中程度の女であると，あらゆる論書で言われています.」

〈最低の女の定義的特質〉

シヴァは言いました――

86.「最低の女の定義的特質をお聞きなさい．手足が細く，多毛で，目は黄褐色で，

87. 歯は非常に長くて隙間が空いており，饒舌で，笑い声が大きく，身体が粗く，腹が大きく，

88. 恥じらいがなく，怒りに満ちており，いつも心が動揺しており，手足が長く，髪が非常に少なく，相が悪く，

89. 良い行いを欠いている女が，避けるべき最低の女と見なされています．というのも，彼女が住んでいる家には[63]，幸運の女神が訪れないからです．

90. その女の夫は不幸になります．この点に関して，疑いを差しはさんではなりません．3 種類の女の定義的特質をあなたにお話ししました[64]．最高の女神よ，幸福な女神よ，他に聞きたいことはありますか.」

【妊娠可能な期間の行い】

〈導入部〉

パールヴァティー[65]は答えました――

91.「偉大な神よ，〔私の〕心は妊娠可能な期間の行いについて聞きたがっています．偉大な方よ，もし憐みがありましたら，それについてお話し下さい[66].」

シヴァは言いました――

92.「女神よ，お聞きなさい．あなたが尋ねたことをお話ししましょう，罪なき女よ．女たちの妊娠可能な期間の定義的特質を聞くことで，知識が身に付くでしょう．

〈月経の起こる年齢〉

93. 12 歳から 50 歳までの間，女からは，各月の 3 日間，本性的に経血が流れ出します.」

【白分と黒分の影響】

〈導入部〉

パールヴァティー[67]は尋ねました——

94.「白分，あるいは黒分の期間には，〔女の初潮の日に〕どのような[68]日の影響がありますか．神よ，それをすべてお話し下さい．〔私の〕心は聞きたがっています．」

〈白分と黒分の影響〉

シヴァは答えました——

95.「〔女の初潮の日に関して，〕白分，あるいは黒分[69]の違いはまったくありません，偉大な女神よ，腰つきの美しい女よ．それは真実であると受け合います．」

【初潮の日の影響】

〈導入部〉

パールヴァティー[70]は言いました——

96.「あなたがお話しした通りに聞きました．神よ，これからは，初潮の日の吉祥な影響，不吉な影響について私にお話し下さい．」

シヴァは答えました——

97.「女神よ，お聞きなさい．女たちの初潮の定義的特質についてお話ししましょう．その性愛に関する学問を学べば，神聖な知識が生じるでしょう．

98. 顔の美しい女よ，まずは，女たちの初潮の日の吉祥な影響，不吉な影響についてお話ししましょう．お聞きなさい．

〈1 日目の影響〉

99. 偉大な女神よ，もし 1 日目に初潮が来たならば，その女は遠からず亡くなります．〔この点に関しては，〕まったく疑いがありません．

〈2 日目の影響〉

100. 偉大な女神よ，もし 2 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，その女は記憶力を失うと知りなさい，最高の女神よ．

〈3 日目の影響〉

101. 偉大な女神よ，もし 3 日目に〔初めての〕月経が起こった[71]ならば，その女は不幸になり，また同様に不妊となるでしょう．

〈4 日目の影響〉

102. もし 4 日目に〔初めての月経が起こった〕ならば，その女も同じ果報を得ます．これは確かな真実であるとあなたに受け合います．女神よ，集中してお聞きなさい．

〈5 日目の影響〉

103. 鹿のような目をした女よ，もし 5 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，その女は遠からず亡くなると，論書に精通した者たちが言っています．

〈6 日目の影響〉

104. 偉大な女神よ，6 日目に〔初めての月経が起こったならば，その女は〕同じ果報を得ます．以上のようにあなたにお話ししました，女神よ．さらにお話ししましょう．集中してお聞きなさい．

〈7 日目の影響〉

105. 偉大な女神よ，7 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，その女は 1 人だけ妊娠します．これは確かな真実であり，疑いはありません．

〈8 日目の影響〉

106. もし 8 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，その女は蛇のような

性質の者となります．女神よ，性愛学〔の書〕におけるのと同様に，私はこのことを述べます．

〈9 日目の影響〉

107. 偉大な女神よ，9 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，実に，その女は人間的な妻[72]となります．この点に関して，疑いを差しはさんではなりません．

〈10 日目の影響〉

108. もし両半月の 10 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，その女は羅刹女になると，賢者たちは言います．女神よ，性愛学〔の書〕において述べられている通りに，集中してお聞きなさい．

〈11 日目の影響〉

109. もし 11 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，その女を鬼女であると知るべきです．この点に関して，疑いを差しはさんではなりません．

〈12 日目の影響〉

110. 12 日目に初めての月経が起こったならば，実に，その女は妖女[73]そのものであると知りなさい，山の娘よ．

〈13 日目の影響〉

111. 女神よ，もし 13 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，その女は法（ダルマ）に従い，夫に貞節な者となります．この点に疑いはありません．

〈14 日目の影響〉

112. 吉祥な女よ，もし 14 日目に〔初めての〕月経が起こったならば，幸運〔の女神〕はその女を見捨てます．これは確かな真実であると受け合います．

〈満月の日の影響〉

113. 女神よ，満月の日に〔初めての月経が起こった〕ならば，その女は神的な性質の者となります．そして，その女を法(ダルマ)を実践するラクシュミー[74]の化身であると知りなさい．

〈新月の日の影響〉

114. もし新月の日に〔初めての〕月経が起こったならば，その女は老いと病に悩まされることになります．この点に疑いはありません．女神よ，以上，知識をもたらす，日の影響をあなたにお話ししました．」

【7つの曜日の影響】

〈導入部〉

シヴァは言いました――

115.「女神よ，7つの曜日の吉祥な影響，不吉な影響についてあなたにお話ししましょう．それを聞いて，ありのままに理解しなさい．

〈日曜日の影響〉

116. 日曜日に初めての月経が起こり，妊娠可能な期間が訪れたならば，その女は寡婦になります．賢者たちは，以上のようにありのままに語っています．

〈月曜日～木曜日の影響〉

117. 女神よ，月曜日ならば夫に貞節な者になり，火曜日ならば一族を汚す者になります．水曜日ならば幸運な者になり，木曜日ならば富裕な夫を獲得します．

〈金曜日と土曜日の影響〉

118. ダイティヤの師の日である金曜日[75]ならば，多くの息子を授かります．土曜日ならば，不妊になります．以上が性愛学〔の書〕を知る者たちの見解で

す.」

【月の影響】

〈導入部〉

シヴァは言いました――

119.「これから，月の吉祥な影響，不吉な影響についてお話ししましょう．女神よ，努めてお聞きなさい．それを聞けば，〔性愛学に関する〕知識を獲得できるでしょう．

〈ヴァイシャーカ月～シュラーヴァナ月の影響〉

120.〔初めての月経が起こったのが〕ヴァイシャーカ月[76]ならば，その女は好ましい言葉を語る者になり，ジヤイシュタ月[77]ならば寡婦になります．シュチ月[78]ならば，その女は富裕な者となり，シュラーヴァナ月[79]ならば子供が亡くなります．

〈バードラ月～カールッティカ月の影響〉

121. バードラ月[80]ならば，その女は病に満たされ，アーシュヴィナ月[81]ならば，子供が亡くなります．そして，カールッティカ月[82]ならば，その女は自分の一族を滅ぼす者になります．

〈マールガシールシャ月～チャイトラ月の影響〉

122. マールガシールシャ月[83]ならば法（ダルマ）を実践する者になり，パウシャ月[84]ならば性愛に悩まされる者になります．マーガ月[85]ならば夫に貞節な者になり，パールグナ月[86]ならば多くの息子を授かります．そして，チャイトラ月[87]ならば性愛に酔い痴れる者になります．〔以上のように，〕月の影響が述べられています．」

【星宿の影響】

〈導入部〉

シヴァは言いました——

123.「女神よ，お聞きなさい．最も重要な星宿の影響についてお話ししましょう．それを聞けば，人は性愛学に関する神聖な知識を手に入れることができます．

〈プールヴァパルグニー星宿～ムリガシラー星宿の影響〉

124. 腰つきの美しい女神よ，お聞きなさい．3つの前の星宿[88]，まったく同様に，バラニー星宿，アールドラー星宿，ムリガシラー星宿は，夫を滅ぼします．

〈マガー星宿の影響〉

125. 女神よ，もしマガー星宿に〔月が位置する時に〕最初の月経が起こったならば，その女は悲しみに悩まされると，論書において確定しています．

〈プナルヴァス星宿の影響〉

126. プナルヴァス星宿に〔月が位置する時に〕最初の月経が起こったならば，その女は不妊になります．これは確かな真実であり，疑いはありません．

〈クリッティカー星宿とジイェーシュター星宿の影響〉

127. もしクリッティカー星宿とジイェーシュター星宿に〔月が位置する時に最初の〕月経が起こったならば，その女が貧しくなるということは確定しています．

（未完）

【参考文献】

岩本裕

1998 『完訳 カーマ・スートラ』（東洋文庫 628），平凡社．

田中 於菟弥
1991 『インド・色好みの構造』，春秋社.

中村 了昭
2013 『新訳 ラーマーヤナ 7』（東洋文庫 838），平凡社.

平岡 聡
2007 『ブッダが謎解く三世の物語 下『ディヴィヤ・アヴァダーナ全訳』』，大蔵出版.

満久 崇麿
2013 『仏典の植物事典』，八坂書房.

マジュプリア，T. C.（西岡 直樹訳）
2013 『ネパール・インドの聖なる植物事典』，八坂書房.

松山 俊太郎
2016a 「インド古典芸術における「女主人公（ナーイカー）」の分類」（その一），『松山俊太郎 蓮の宇宙』，太田出版，pp.103-113.
2016b 「インド古典芸術における「女主人公（ナーイカー）」の分類」（その二），『松山俊太郎 蓮の宇宙』，太田出版，pp.114-128.

矢野 道雄
1992 『占星術師たちのインド』，中公新書.
2010 「科学史からみたインド文化」，『南アジア研究』第 22 号，pp.245-260.

矢野 道雄・杉田 瑞枝
1995a 『占術大集成――古代インドの前兆占い 1 ――』（東洋文庫 589），平凡社.
1995b 『占術大集成――古代インドの前兆占い 2 ――』（東洋文庫 590），平凡社.

山崎 守一
2018 『古代インド沙門の研究――最古層韻文文献の読解――』，大蔵出版.

Raghavan, V.
1951 *Śṛṅgāramañjarī of Saint Akbar Shah*. Hyderabad: Hyderabad Government.

Schmidt, Richard
1922 *Beiträge zur Indischen Erotik: das Liebesleben des Sanskritvolkes*. Berlin: Hermann Barsdorf Verlag.

Zysk, Kenneth G.
2002 *Conjugal Love in India: Ratiśāstra and Ratiramaṇa. Text, Translation, and Notes*. Sir Henry Welcome Asian Studies Volume 1. Leiden/Boston/Köln: Brill.
2016 *The Indian System of Human Marks* (Volume 1 & 2). Sir Henry Welcome Asian Studies Volume 15. Leiden/Boston: Brill.

（本研究は JSPS 科研費 19K12953 の助成を受けたものです）

(1) 以下の内容は，主として Zysk 2002 にもとづく．
(2) この分野に属するその他の文献としては *Ratiramaṇa* があり，RŚ よりもわずかに新しいと考えられている．RŚ の年代に関しては，Zysk 2002, p.27 以下を参照．
(3) Ratiśāstra と Kāmaśāstra の関係については，Zysk 2002, p.9 以下を参照．Zysk 2002, p.21, *ll*.2–3 によれば，Ratiśāstra と Kāmaśāstra を区別する大きな特徴は，前者の方が samudra に対して特別な注意を払っている点にあるとされる．両者が扱うトピックの同異については，Zysk 2002, p.10 の一覧を参照．
(4) Ratiśāstra と Sāmudrikaśāstra の関係については，Zysk 2002, p.14 以下を参照．Sāmudrikaśāstra の代表的な文献として，Zysk 2002, p.14 では，*Gargasaṃhitā*, *Bṛhatsaṃhitā*, *Sāmudrikatilaka* といった名前が挙げられている．他にも，Purāṇa（古譚）や Smṛti（伝承聖典），バラモン教的な学問の百科事典的集成や仏教の *Divyāvadāna* などにも組み込まれている．Sāmudrikaśāstra に関する詳細な研究としては，Zysk 2016 を参照．*Divyāvadāna* の該当箇所に関しては，矢野 2010 を参照．この箇所は，平岡 2007 では割愛されており，訳出されていない．インドにおける Sāmudrikaśāstra の歴史は非常に古く，例えば，ジャイナ教の古層文献などにおいても，修行の妨げになるものとして沙門には禁止されている．山崎 2018, p.90 以下等を参照．
(5) Ratiśāstra と Dharmaśāstra の関係については，Zysk 2002, p.22 以下を参照．
(6) Ratiśāstra と Vaidyakaśāstra の関係については，Zysk 2002, p.25 以下を参照．
(7) RŚ の写本は，編者である Zysk が過去何年にも渡って探したが，見つからなかったという．そのため，この版は写本にもとづくものではなく，過去に出版された 5 つの版本を批判的に校合したものである．Zysk がもとづいた方針，および版本に関する情報については，Zysk 2002, p.35 以下を参照．
(8) Zysk 2002 は「托鉢修行者（mendicant）」と解するが，従わない．
(9) Zysk 2002 は「母なる自然の具現化したもの（the embodiment of Mother Nature）」と解する．
(10) 輝かしい女（gaurī）
(11) 幸福をもたらす者（śaṅkara）
(12) Zysk 2002 は，tad vada の部分の訳を欠く．
(13) 山の娘（nagātmajā）

(14)　Zysk 2002, p.98, n.10 の解釈に従って補った.

(15)　山の娘（naganandinī）

(16)　pāda c の tṛptir na jāyate tava は，tava という属格を主語的に解釈すれば「あなた（＝パールヴァティー）が〔私に〕満足しない」となり，目的語的に解釈すれば「〔私が〕あなた（＝パールヴァティー）に満足しない」となる．Zysk 2002 は “I derive no sexual satisfaction from you” と訳しており，2 つ目の解釈をとっていると思われるが，パールヴァティーが怒っている点，および第 12 詩節に「あなたを喜ばせるために（prītyarthaṃ tava）」とある点を考慮して，1 つ目の解釈をとった.

(17)　Zysk 2002 は，“Great lady, I told you (before) that I am a yogin-ascetic, completely without desires, and that I derive no sexual satisfaction from you” と訳し，pāda ab の内容もシヴァの発言の内容に含めているが，pāda c の ca の位置を考慮し，従わない.

(18)　神々の中の神（devadeva）

(19)　最高の自在神（parameśvara）

(20)　第 16～31 詩節は，*Ratiramaṇa* 第 5 章第 2～20 詩節と対応する．対応関係に関する詳細は，Zysk 2002, p.31 の対照表を参照.

(21)　Kāmasūtra（以下，KS）では，性器のサイズに従って，男を兎種（śaśa），牛種（vṛṣa），馬種（aśva）の 3 種類に分類しており，これに鹿種（mṛga）を加えて 4 種類としたのは，Jyotirīśvara の *Pañcasāyaka* とされる．Zysk 2002, p.13, *ll*.1–4 を参照. KS と中世の Kāmaśāstra における男の分類に関しては，Schmidt 1922, pp.121–129 を参照．また，KS の該当箇所の和訳は，岩本 1998, p.101 以下を参照.

(22)　この kṛṣṇakathāparāyaṇaḥ という表現は，pāda c の kṛṣṇakathāsu lālasaḥ と内容的に重複している．以下，注記しないが，RŚ においては，このような内容上の重複や矛盾がしばしば見られる.

(23)　檳榔樹（びんろうじゅ）．インドからマレーシアにかけて分布するマレー原産のヤシ科植物で，学名は *Areca catechu*．南アジアでは，その果実と石灰を混ぜてキンマの葉に包んだものを嗜好品として噛む習慣がある．満久 2013, p.40 以下，マジュプリア 2013, p.213 以下等を参照.

(24)　Zysk 2002 は，pāda c の śṛṅgāre mana ādhatte の訳を欠く.

(25)　Zysk 2002 は「彼は手に入れることのできる女ならば誰でも手に入れるが，〔その女からは〕心に性的な満足を得ることがありません（he gets whatever woman he can and receives no sexual gratification in his heart (from her)）」と解するが，原文に否定辞がないため従わない.

(26)　女神（devī）

(27)　KS の 3 分類を最初にこのような 4 分類にしたのは *Ratirahasya* である．そして，KS に由来する体系を完全に離れたのは，Mīnanātha の *Smaradīpikā* と Jayadeva, Kāmadeva の *Ratimañjarī* であり，Ratiśāstra はこれを取り入れたとされる．Zysk 2002, p.12, *l*.25 以下を参照．また，田中 1991, p.195 以下の「愛経文献の女性像」では，KS の分類と *Ratirahasya* の分類を比較しながら Kāmaśāstra の女性の分類を解説している．KS と中世の Kāmaśāstra における女性の分類に関する詳細は，Schmidt

1922, pp.153–186 を参照.

(28) 第 33～52 詩節は，*Ratiramaṇa* 第 3 章と対応する．対応関係に関する詳細は，Zysk 2002, p.31 の対照表を参照.

(29) pāda a の satī を現在分詞として解釈したが，「貞淑であり」という形容詞として解釈することも可能である．Zysk 2002 は現在分詞と解していると思われる.

(30) 難解．pañcāṅgula は，一般的には「指 5 本分の長さ」の意．Zysk 2002 は，最も特権的な女性が 10 本の指すべてに付ける指輪のことと解する．Zysk 2002, p.100, n.40–42 を参照.

(31) Zysk 2002 は「〔法螺貝の〕三本筋の印（the mark of three lines (of a conch shell)）」と解する.

(32) Zysk 2002 は「会話と演劇（conversation and dramatic performance）」と解するが，従わない.

(33) Zysk 2002 は「自惚れが強い（vain）」と解するが，従わない.

(34) Zysk 2002 は「大きく，形の悪い臀部（large, unshapely buttocks）」と解するが，“unshapely” に相当する語は原文に見られない.

(35) 尊い女神（bhagavatī）

(36) Zysk 2002 は「大まかに（in rough form）」と解するが，従わない.

(37) Zysk 2002 は「婚姻関係を結ぶ（join in matrimony with）」と解する．bandhane は結婚の意か？

(38) ナーラーヤナ（nārāyaṇa）．最も良いのがラクシュミーとヴィシュヌの組み合わせで，2 番目がパールヴァティーとシヴァの組み合わせ（第 55 詩節），3 番目がラティとカーマの組み合わせ（第 56 詩節），4 番目がラーヴァナとマンドーダリーの組み合わせ（第 57 詩節）とされる．Zysk 2002, p.101, n.54–57 を参照.

(39) 第 54～57 詩節は，*Ratiramaṇa* 第 6 章の最初の部分と対応する．対応関係に関する詳細は，Zysk 2002, p.32 の対照表を参照.

(40) 輝かしい女（gaurī）

(41) 酔わせる者（madana）

(42) マンドーダリーは，ダーナヴァの勇士マヤの娘．ラーヴァナとマンドーダリーの結婚の経緯については，*Rāmāyaṇa* 7.12 で語られる．該当箇所の和訳は，中村 2013, p.74 以下を参照.

(43) 底本の kiṃ vidhā を kiṃvidhā と繋げて読む.

(44) 第 58～62 詩節は，*Ratiramaṇa* 第 9 章の冒頭部分と対応する．対応関係に関する詳細は，Zysk 2002, p.32 の対照表を参照.

(45) 第 63～67 詩節は，*Ratiramaṇa* 第 8 章の末尾の部分と対応する．対応関係に関する詳細は，Zysk 2002, p.32 の対照表を参照.

(46) ジイェーシュター星宿（Jyeṣṭhā）の別名．ジイェーシュター星宿を支配する神格がインドラであるため，マヘーンドラ（mahendra）とも呼ばれる．矢野 1992, p.95 の表 2 を参照.

(47) シャタビシャジュ星宿（Śatabhiṣaj）の別名．シャタビシャジュ星宿を支配する

神格がヴァルナであるため，ヴァ―ルナ（vāruṇa）とも呼ばれる．矢野 1992, p.95 の表 2 を参照.

(48) Zysk 2002 は，「性交の最中に心の中で見た（the man she sees (in her mind during intercourse)）と解する．ここでは，Zysk 2002, p.103, n.67 でアーユルヴェーダの伝統に見られる見解として提示される解釈に従った.

(49) この詩節の内容は，前後の内容からやや浮いているように思われる.

(50) 兎種と蓮華性の子については，すでに第 59 詩節でも述べられている．また，第 66～71 詩節までの内容は，第 58～62 詩節の「生まれる子の種類」の箇所で述べられるべきものと考えられる.

(51) パールヴァティーの問いがないにもかかわらず，ここは，śiva uvāca で始まっている．また，内容も，第 59 詩節以下に含まれるべきであると考えられるため，テキストに何らかの混乱があると考えられる.

(52) Zysk 2002 は，「娘は常に正しい行いに専心する者となります（a daughter born (from the same union) will always be intent on good behavior）」と訳し，sadācāra を sadā + ācāra と解しているようであるが，ここでは sad + ācāra と解釈した.

(53) 尊い女神（bhagavatī）

(54) ブラフマン（brahman）

(55) vedī は，真ん中の部分が細い形の祭壇で，しばしば女性の腰の比喩として用いられる.

(56) Zysk 2002 は，「たとえ家族に見捨てられていても（even if she is forsaken by her family）」と解するが，従わない.

(57) Zysk 2002 は “thin limbs” と訳すが，意味上，直前の pāda と重複するため，従わない.

(58) pāda d にほぼ同義と考えられる piṅgalām という表現があるため，Zysk 2002, p.104, n.75 の解釈に従って補った.

(59) 同様の記述は，すでに KS に見られる．nakṣatrākhyāṃ nadīnāmnīṃ vṛkṣanāmnīṃ ca garhitām/ lakārarephopāntāṃ ca varaṇe parivarjayet// KS 3.1.12.（*Kāmasūtra*. Ed. Devadattaśāstrī. Kāśī Saṃskṛta Granthamālā 29. Vārāṇasī: Caukhambhā Saṃskṛta Saṃsthāna, 1999）該当箇所の和訳は，岩本 1998, p.163 を参照.

(60) この詩節は，直前の第 76 詩節の例外規定となっている．Zysk 2002, p.104, n.76-77 を参照.

(61) 第 79～90 詩節は，*Ratiramaṇa* 第 4 章の冒頭の部分と対応する．対応関係に関する詳細は，Zysk 2002, p.32 の対照表を参照．uttamā，madhyamā，adhamā という 3 分類は，Kāmaśāstra には見られないが，演劇論，詩論に関する文献やある種の古譚に広く見られるという．Zysk 2002, pp.13-14 を参照．また，Raghavan 1951, p.14 以下でも詳しく論じられているように，サンスクリット語で書かれた文芸批評作品には，nāyikā（女性），および nāyaka（男性）の分類も広く見られる．nāyikā の分類については，松山 2016a, 2016b 等を参照.

(62) Zysk 2002 は，madālasyavivarjitā という語に関して，「酔いによる怠惰を離れてい

る（free from sloth (ālasya) from intoxication (mada)）という別解釈も提示している．Zysk 2002, p.105, n.82–85 を参照．

(63) 底本の yadgṛhe を yad gṛhe と切って読む．

(64) 底本には rajendra という呼び掛け（？）の語があるが，難解．Zysk 2002 は，この部分を訳していない．

(65) 尊い女神（bhagavatī）

(66) 第 91～127 詩節は，*Ratiramaṇa* 第 7 章の大部分と対応する．対応関係に関する詳細は，Zysk 2002, pp.32–33 の対照表を参照．

(67) 尊い女神（bhagavatī）

(68) 底本の kiṃ vidhaṃ を kiṃvidhaṃ と繋げて読む．

(69) 白分とは異なるもの（śukletara）

(70) 尊い女神（bhagavatī）

(71) 原語の padmaṃ vikasitaṃ を直訳すると「蓮華が開花した」となる．Zysk 2002, p.106, n.101 によれば，女性器が完全に開くこと，すなわち女性が月経期間にあることを意味し，ṛtumatī，rajasvalā，rajovatī といった語と同義とされる．

(72) mānavajāyā は，直訳すると「人間の妻」であるが，Zysk 2002, p.107, n.107 でも指摘されているように，前後の詩節の表現などを考慮すると，人間的な性質の妻を意味すると考えられる．

(73) 原語は yoginī．あるいは，女ヨーガ行者か？

(74) カマラー（kamalā）．Zysk 2002, p.107, n.113 を参照．

(75) シュクラ（śukra）

(76) 4～5 月に相当．

(77) 5～6 月に相当．

(78) 6～7 月に相当．

(79) 7～8 月に相当．

(80) 8～9 月に相当．

(81) 9～10 月に相当．

(82) 10～11 月に相当．

(83) 11～12 月に相当．

(84) 12～1 月に相当．

(85) 1～2 月に相当．

(86) 2～3 月に相当．

(87) 3～4 月に相当．

(88) プールヴァパルグニー星宿（Pūrvaphalgunī），プールヴァーシャーダー星宿（Pūrvāṣādhā），プールヴァバドラパダー星宿（Pūrvabhadrapadā）の 3 つを指す．

ISSN　0287–1556

佛教學セミナー

第　114　号

論　　文

末法思想の日本への流伝と臨池伽藍……采　睪　　晃… 1

新入会員歓迎講演

ボン教の典籍……三　宅　伸一郎…26

書評・紹介

ショバ・ラニ・ダシュ著
『パーリ語文法―仏典の用例に学ぶ』……佐々木　　閑…49

＊　＊　＊　＊　＊

学　会　彙　報……60

＊　＊　＊　＊　＊

論　　文

性愛をめぐるシヴァとパールヴァティーの対話
―*Ratiśāstra* 和訳（1）―……堀　田　和　義…*22*

キタンパ・イェシェーペル著
「リンチェンサンポ伝」中本の和訳（一）……井　内　真　帆… *1*

２０２１年１２月

大谷大學佛教學會

No. 114 December, 2021

BUDDHIST SEMINAR

CONTENTS

Article

The Thought of Degenerate Dharma in Japan and Monasteries on the Garden Pond ····· WAKEMI Akira 1

Chairman's Address for New Members of the Buddhist Studies Association

Bon–po Literature ····· MIYAKE Shin'ichiro 26

Book Review

Dash Shoba Rani, *Pāli Grammar: Learning from the Pāli Scriptures* ····· SASAKI Shizuka 49

* * * * *

Reports ····· 60

* * * * *

Articles

An Annotated Japanese Translation of the *Ratiśāstra* (1) ····· HOTTA Kazuyoshi *22*

An Annotated Japanese Translation of the medium–length version of the biography of Rin chen bzang po by Khyi thang pa Ye shes dpal (1) ····· IUCHI Maho *1*

PUBLISHED BY
THE SOCIETY OF BUDDHIST STUDIES
OTANI UNIVERSITY
KYOTO JAPAN